



ほんかん	10:00~18:00 (火ようび~日ようび)	でんわ 077-586-0218 ファクス 077-587-5976
ちゅうずぶんかん	10:00~17:15 (火ようび~日ようび)	でんわ・ファクス 077-589-3382
ホームページ	https://www.lics-saas.nexs-service.jp/yasu/	



こどもむけイベントのお知らせ

★ちっちゃなおはなしの森 in 中主

12月26日(木) 11時~

場所: 中主分館 (赤ちゃんから)

だいじなお知らせ

本館はエアコンの工事をしているため、3月まではだんぼうが入りません。寒いので、あたたくしてきてくださいね。



このため、12月~2月は、本館でのおはなし会はしていません。

12月のとしょかんカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26 ちっちゃなおはなしの森 in 中主	27	28
29	30	31	※ 12/29(日)~1/4(土)まで お休みします。			

『エナガのくらし いつも仲間といっしょ』 K488

東郷なりさ/作 江口欣照/写真 (文一総合出版)

ふわふわの羽毛でおおわれていて、体重が7グラムくらいしかないかわいらしい小さな鳥、エナガはいつも仲間といっしょにむれでくらししています。エナガの1年のくらしを写真でしようかい。



『ゆきのもりのおくりもの』 リンダ・アース/文・絵 西村由美/訳 (岩波書店) E/キ

クリスマスのひ、ソフィーのパパはいそがしくてパーティーをひらくじかんがありません。そこでソフィーはすてきなことをさがしにでかけます。するとふぶきのなかからヘラジカがあらわれます。



あたらしくはいったほん

『森に帰らなかったカラス』 ジーン・ウィリス/作

山崎美紀/訳 (徳間書店) K933/ウ1

11さいの少年ミックは森でけがをしたカラスのひなをみつけた。両親や友だちの手をかりつつ、けんめいに手当てをするうち、ひなはすっかりミックになつく。やがてみんなの人気者になるが…。



『おおなわ跳びません』 赤羽じゅんこ/作 (静山社)

K913/7カ

5年2組の学級会でおおなわ大会にはでないと宣言した、左足にハンディをもつ双葉。クラスメイトは双葉を支えたいが、その考えは人それぞれで…。皆がなっとくできる方法はみつかるとか。



『図書館ねこデューイ』 **K645**

ヴィッキー・マイロン/作 岡田好恵/訳

稲田あゆ美/絵 (77キ・77イ77-77)

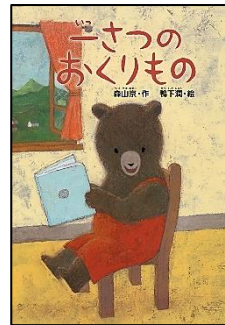
寒い冬の朝、図書館の返却ポストに、小さなねこが捨てられていました。デューイと名付けられた子ねこは、頭がよくて人なつこく、みんなの人気者になり、図書館のためにはたります。やがて、次つぎときせきがおこって…。



『一さつのおくりもの』

森山京/作 鴨下潤/絵 (講談社) **K913/E1**

クマタは『かいがらのおくりもの』というえほんが大すきで、まいにちよんでいました。でも、山のむこうにある村が、大雨で水びたしになったと知ったクマタは、なにかしてあげたくて、いちばんたいせつなえほんをあげるけっしんをします。



『ぼくはなんのほん?』 **E/林**

カロリーナ・ラベイ/著 はせがわけい/訳 (光文社)

だれもいないよるとしよかん、ほんたちはたのしくおしゃべりをします。ところが、そのなかに1さつだけ、だれにもよんでもらえず、「じぶんがなんのほんかわからない」とさびしうにしているほんがありました。



『きみが、この本、読んだなら』 **さわめく教室編**

戸森しるこ/ [ほか] 作 (さ・え・ら書房) **K913.68/キ**

いつも人形をかかえている、ふしぎな同級生に本をすすめるお話「クロエ・ドール」をはじめ、思いがけない本との出会いや、本で気持ちを伝える話など、4つの物語が入っています。★「とまどう放課後編」もあります。



ほん
すてきな本と

であ
出会う場所

『ひみつの地下図書館 ①クモの巣で大きわざ?!』

アビー・ロングスタッフ/作 代田亜香子/訳 坂口友佳子/絵 (ほるぷ出版) **K933/01**

タリーは、古い大きなお屋敷ではたらく10歳の女の子。ある日、タリーは、お屋敷にかくされた暗号を解いて、ひみつの地下図書館を見つけた。そこにあった魔法の本たちが、タリーを助けてくれて…。★シリーズあるよ!



『としよかんライオン』 **E/ソ**

ミシェル・ヌードセン/さく ケビン・ホークス/え 福本友美子/やく (岩崎書店)

あるひ、としよかにライオンがはいってきました。かんちょうは、としよかんのきまりをまもるなら、ライオンがいてもいいといいました。ライオンは、まいにちとしよかにきて、おはなしをきいたり、おてつだいをしたりしていましたが…。



『走る図書館』が生まれた日』 **K016**

シャーリー・グレン/作 渋谷弘子/訳 (評論社)

図書館に来られない人がいるなら、図書館が本をとどければいい! たくさんの本を車に積みこんで、広いアメリカを走り回り、読書の喜びをとどけた「移動図書館」。そのアイデアを考えた司書の生涯と本にかけた思いを語る。



『ひと箱本屋とひみつの友だち』

赤羽じゅんこ/作 はらぐちあつこ/絵 (さ・え・ら書房) **K913/74**

ひと箱ぶんだけ、自分の好きな本をならべて売ることができるシェア本屋「SHIORI」。そこで売られていた手作りの本を買った朱莉は、あまりの面白さに、作者の女の子と友だちになりたいと思う。はじめて会ったふたりは…。

